

## 平成 21 年度 第 2 回磐田市特別支援連携協議会 議事要旨

1 日 時 平成 22 年 3 月 16 日(火) 午後 2 時から午後 4 時

2 会 場 磐田市豊田支所 3 階 303 会議室

3 磐田市特別支援連携協議会委員 (敬称略)

(1) 学識経験を有する者 福永博文

(2) 障害児(者)を支援する団体の代表者 伊藤智子 浅岡守

(3) 福祉関係機関の代表者 村松隆之 鈴木美和

(4) 医療関係機関の代表者 白井真美

(5) 労働関係機関の代表者 石川博巳

(6) 関係行政機関の職員 赤塚めぐみ

(7) 学校関係者 平井はる美 村松智恵子 吉林隆吉 鈴木俊博 鈴木匡子  
内藤かず子

(8) 市の職員 内山敏子

4 議事要旨

(1) あいさつ

- ・ 磐田市特別支援連携協議会会長
- ・ 磐田市教育委員会学校教育課長

(2) 保育園における特別支援教育の現状(協議 1)

Q 小学校への連携は。

A 平成 22 年 4 月就学児から保育要録の写しを送付している。

Q 保護者に対して医学的診断を勧めているか。

A 受容している保護者でないと勧められない現状がある。

Q 大勢の中での我が子の未熟さに気づく場を意図的に設定できると良いが、よい方策はあるか。

A 受容は難しいが、回数を重ねることで受容につながる。

(3) 幼稚園における特別支援教育の現状(協議 2)

Q 障害がある子が入園する場合の連携は。

A 保健師による聞き取り調査等を行っている。平成 22 年度以降、教育委員会に 2 人の保健師を配置し、さらなる連携体制を考えている。

(4) 磐田市の特別支援教育全般について(協議 3)

Q 個別の教育支援計画についての活用は。

A 活用する重要性を学校現場に伝えていく。さらに、研修を実践していく。

A 中学校までの連携の流れを高校以降もつなげていくことが必要。つなげる際には保護者理解が必要である。

(5) その他

- ・ 事務局から特別支援学級の拠点校化の展望について説明した。